

社業の発展を通じ、自らの技術で寄与して築く 安全・安心・快適な社会

鹿島建設(株) 海外事業本部
企画管理部 部長 **海野 洋**

鹿島グループの CSR の基本理念

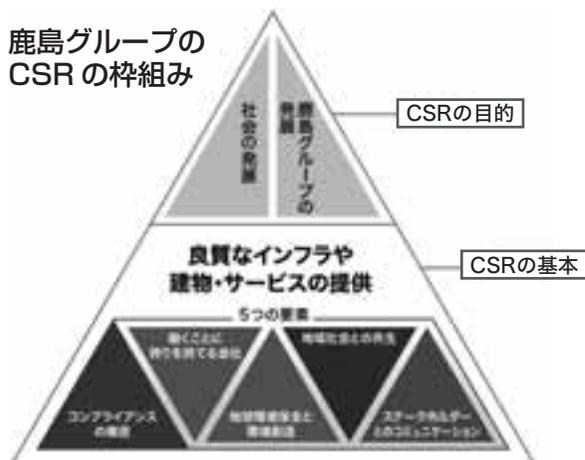
鹿島は、「社業の発展を通じて社会に貢献する」という経営理念に基づいて「鹿島グループのCSRの枠組み」を定め、グループ全体でCSR活動を展開している。

本業で人々の活動の場や生活基盤を整備し、社会の持続可能性追求の一端を担い、社会の発展が鹿島グループの発展と軌を一にしていると捉えている。

そのフィールドは日本国内を中心とし、さらにアメリカ、ヨーロッパ、アジア、そしてアフリカなど世界各地に広がっている。安全・安心で快適な社会となるよう自らの技術で寄与し、社会の持続可能性を追求することが、鹿島の事業を通じて果たす責務である。

この考え方に沿って自らの企業の社会的責任(CSR)を「鹿島グループのCSRの枠組み」に定め、活動を展開している。

鹿島グループの CSR の枠組み



グループの海外 CSR 活動

鹿島グループは、Kajima U.S.A. Inc. (KUSA) を統括会社として米国・メキシコで事業を展開、シンガポールのKajima Overseas Asia Pte Ltd (KOA) を統括会社としてアジア 8 カ国で事業を展開、英国のKajima Europe Ltd. を統括会社として欧州 4 カ国で事業を展開し、加えて中国と台湾で事業を展開しており、これらの地域で上述の基本理念に基づき、当社グループはCSR活動を実施している。

今回は、長年地域社会に根差した社会貢献活動を行ってきたKUSAと、昨年フィリピンを襲った台風 30 号の被害に対する、KOA傘下のフィリピン現地法人などによる協働支援活動をご紹介します。

米国での CSR 活動

米国では、KUSA を統括会社として、その傘下で建築事業と開発事業を展開し、50年の歴史がある。事業開始 25 周年を記念して、1989年にKajima Foundation (基金 100 万ドル) を設立し、草の根の寄付活動、特に、①経済的に恵まれない子どもを支援する NPO、②難病の子どもとその家族を支援する NPO、③低所得者層へ医療提供する NPO、④障害者に対する職業訓練を実施する NPO、⑤がん関連の NPO などを対象として支援を継続している。

近年では、年間 3 万ドル程度の寄付を実施しており、現在までに総額約 90 万ドルの支援を行ってきている。支援先は、KUSA グループの社員が運営などに関与している NPO が主であり、社員個人



BCC チャリティー射撃大会での収益金を寄付

の社会貢献を後押しする寄付を実施している。

次に、「米国ならではの」という独特なかたちでの地域貢献活動の例を紹介する。KUSA グループには、ジョージア州で 80 年余の歴史を有する Batson Cook Company (BCC) がある (2008 年に M&A)。BCC は、ジョージア州への貢献を目的とし、06 年から毎年 3 月にチャリティー・イベントとしてクレ射撃大会を実施しており、その収益を寄付に活用している。例年 8 月から、15 人程度の委員会メンバーで企画などの準備を開始し、翌年 3 月のイベント当日は、社員を中心としたボランティア 50 ～ 60 人で大会の運営に当たっている。

このイベントでは、毎回、得意先、設計会社や協力業者などからスポンサーを募り、今年で 9 回目を迎えた。今年は過去最大規模の総勢 340 人の参加者を得て、地元の非営利組織に 13.6 万ドルの寄付を実施した。第 1 回目からの累計寄付額は 82.9 万ドルに上る。主要な寄付先は、がん関連の NPO、病気の子どもの支援する NPO などである。

アジアでの CSR 活動

昨年フィリピンを襲った台風 30 号の被害に対する支援活動をした。KOA 傘下の KAJIMA PHILIPPINES INC. とその社員が関与する NGO が、国際的 NGO である米国 Samaritan's Purse と協力し合いながら、レイテ州タクロバン市の Tanauan 地域にある Cabuyunan 小学校 (14 人死亡、530 人在籍) と Palo 地域の San Joaquin 小学校 (68 人死亡、428 人在籍) に対して支援を実施した。

寄付は、KOA グループ、KAJIMA PHILIPPINES INC. 社員による寄付に加え、鹿島社員有志からの寄付 (※) を合わせ、総額約 250 万円に上った。支



Cabuyunan 小学校での目録贈呈

左から 2 人目はサマリタンズパース Mr.Jose Ampuyas
左から 3 人目が校長の Ms.CAROLINE M.MORANTE
右から 3 人目がカジマフィリピン加藤 COO



San Joaquin 小学校での目録贈呈

右から 3 人目が校長の Mr.LIBERATO COBACHA
左から 2 人目がカジマフィリピン加藤 COO

援品の選定に当たっては、被災地の現状確認、大量の物資を被災後の現地に届けるためのロジスティクスの検討、現地タクロバンの最小行政区担当者や学校関係者に、ニーズの確認を行うためのヒアリングなどの様々な事前準備を行った結果、ようやくエコバックに詰めた毛布、タオルとリュックサックに入れた文房具を、支援品として生徒に手渡すことができた。

(※) 鹿島ボランティアネットワーク (鹿島の有志によるボランティアグループ・KV ネット) がとりまとめ。

その他の CSR 活動

最近まで行っていた CSR 活動として、中国における事例を紹介する。上海西部の安徽省において、日本企業ネットワークの上海日本商工クラブが、07 年から毎年 2 カ所に小学校を建設し寄贈していた。08 年の四川大地震以来、中国においても校舎の安全性が注目されており、鹿島建設 (中国) 有限公司の社員の役割は、耐震性など設計内容の確認と技術支援であり、子どもたちが安全に学習できる校舎の提供に貢献してきた。これは、自らの技術で安全・安心な社会に寄与し、社会の持続可能性を追及するという当社の基本理念に通じるものであるとともに、この活動が将来の日中友好の架け橋になることを祈念している。■

◆鹿島グループの CSR

http://www.kajima.co.jp/csr/csr_outline/index-j.html